

オープンデータ流通推進コンソーシアム 技術委員会のミッションと検討内容

2012.10.24.

技術委員会の設立背景

■ オープンデータの利活用に関する関心・気運の高まり

- ▶ 米国: BUILDING A 21ST CENTURY DIGITAL GOVERNMENT (2012.05)
◇オバマ政権が打ち出した覚え書き。オープンデータの積極的推進をうたっている。
- ▶ EU: 欧州オープンデータ戦略 (2011末)
◇EU域内でのデータ処理技術の研究開発のための支援を行う方針を打ち出す。
→ 英国・フランスが公共データのオープン化・積極活用を進めている。
- ▶ オーストラリア: オープンガバメント宣言 (2010)
◇公共が保有する情報は重要な資産であり、これを開放することで新たなサービスが生まれ、新しい公共の価値が創出されるとうたっている。
- ▶ 日本: 電子行政オープンデータ戦略 (2012.07)
◇公共データを2次利用可能な形で提供することにより、さまざまな新ビジネスの創出や企業活動の効率化を促すことを目指している。

■ 新たなオープンデータの出現

1. IoT (Internet of Things) 技術の進展により、センサ情報などのリアルタイム情報を公開・共有する動きがある。
◇cosm (旧Pachube)
◇ThingSpeak
◇OpenSense など
2. SNS (Social Network Service) の情報も、オープンデータとして利用できる。
◇Twitter
◇Facebook
◇mixi など

■ オープンデータの利活用を進めるための要求

- ▶ 政府や地方公共団体等が自らデータを公開すること
- ▶ 公開されたデータのフォーマットが統一できること
◇PDFやJPEGなど2次利用できない形式で公開されている、行政機関・組織ごとにフォーマットが異なるため収集・整理に多くの時間が必要となる、という問題が指摘されている。



- 公共機関や民間の保持する、さまざまな種類のオープンデータを流通させる環境を実現するための、標準的な技術規格の検討が必要

検討対象とするオープンデータ

■ 統計情報

■ 地理情報

- ▶ 公物の設置・管理場所など

■ センサデータ(リアルタイムデータ)

- ▶ 環境情報(温度・湿度等)・エネルギー情報・生体情報・公共交通機関の位置／障害情報など

■ 物流・トレーサビリティ情報

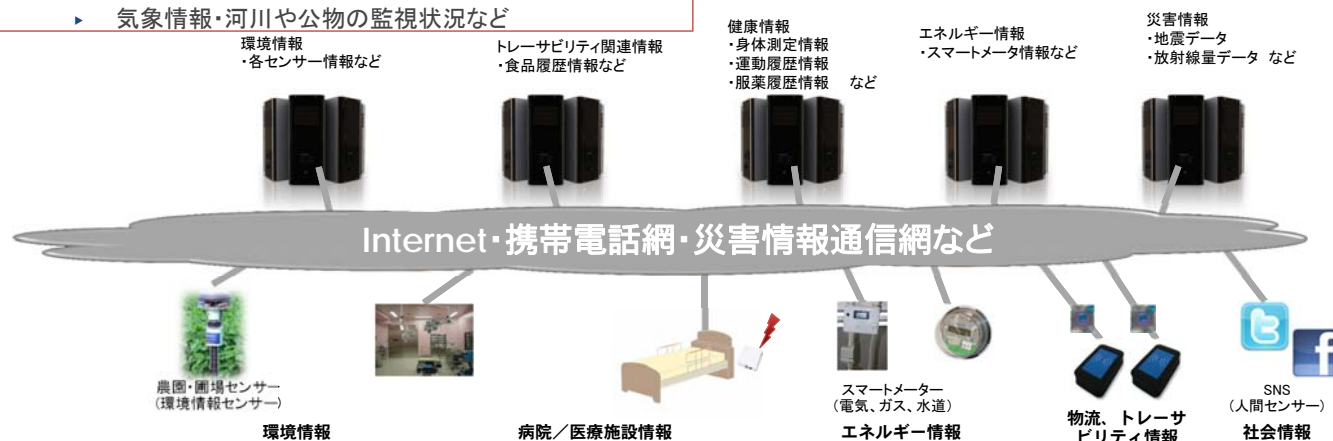
- ▶ RFID等を利用した商品の通過・検品履歴
- ▶ 複数の事業者にもたがる商品の入出荷履歴情報 など

■ 防災関連情報

- ▶ 気象情報・河川や公物の監視状況など

■ これらのデータの特徴

- ▶ リアルタイム性のある情報である
- ▶ データサイズが膨大(Gbytes~Tbytes)である
◇例: 100戸のガス・水道・電気の使用料を5分おきにモニタすると、1ヶ月で100GB程度のデータが蓄積される。
- ▶ すべてのデータを公開できるとは限らない
◇例: トレーサビリティデータに含まれる取引情報(入出荷履歴情報)は、本来社外秘情報である。食品や製品に問題があったときに限り、その情報が開示される。
(※状況によって公開される情報が変わる)



技術委員会のミッションと実施内容

■ ミッション

1. 前頁のようなオープンデータを流通させるための標準技術仕様(以下「標準仕様」)のあり方を検討
 - ◇標準データ規格
 - ◆オープンデータの表現モデル(オープンデータはメタデータとして表現される。それを表現するモデル)
 - ◆オープンデータを表現するためのボキャブラリ(メタデータを理解するための標準的な辞書)
 - ◇標準API
 - ◆オープンデータを取得・交換するための標準的な手法を規定したもの
2. 国際標準化のための作業検討
 - ◇ITU-T, W3C, ...

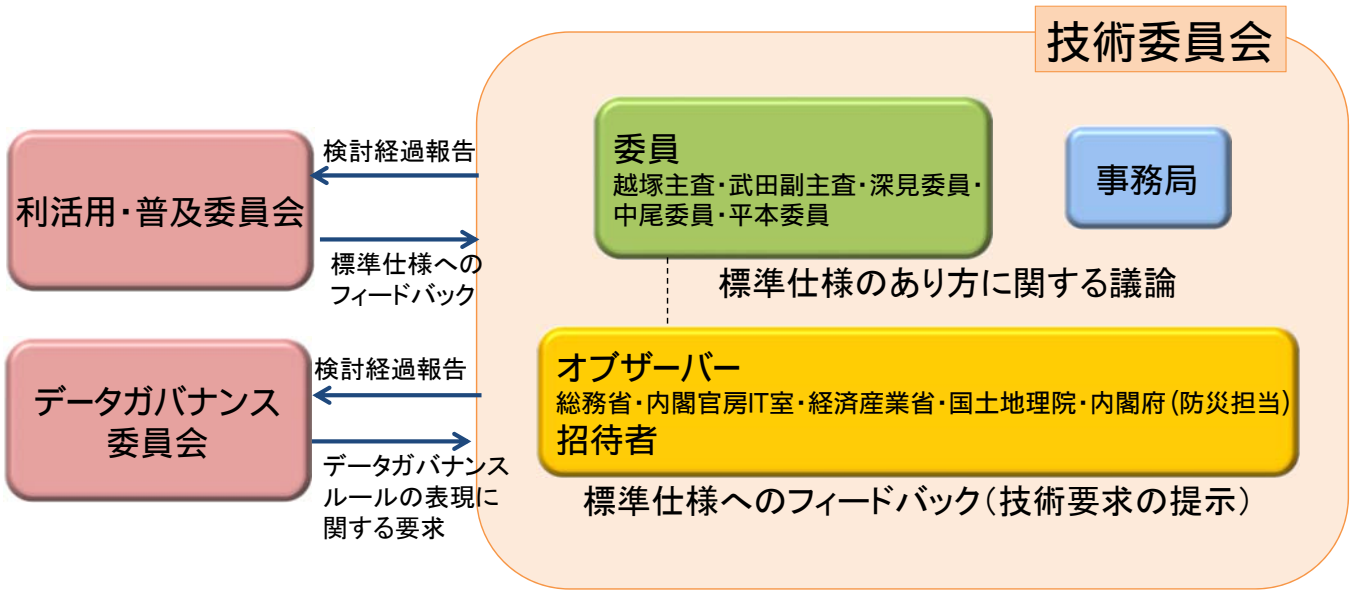
■ 実施内容

1. 標準仕様のあり方に関する議論
 - ◇ 標準仕様素案に関する意見交換
 - ◇ 類似する既存規格・取組の整理と整合性検討
 - ◆ 米国NIEM/欧州ISA/気象メタデータ(気象庁) など
 - ◆ CKAN/LOV (Linked Open Vocabulary)
 - ◇ 利活用・普及委員会などへの技術要件ヒアリングとその要件に対する標準仕様へのフィードバック検討
 - ◇ データガバナンスのライセンス表現や、それに基づくデータ処理に関する技術的な検討(2年目以降)
2. 国際標準化活動に関する意見交換
 - ◇ 1年目は、標準化の動向調査と体制に関するヒアリング、意見交換

■ 想定アウトプット

- ▶ 活動報告書(標準仕様を含む)

技術委員会の位置づけと構成



(*)「標準仕様」については後述

技術委員会での検討内容案(3年間)

	1年目	2年目	3年目
検討の基本方針	標準仕様の検討 標準化準備	標準仕様の精査と標準化 活動に関する検討	標準仕様の精査と標準化 活動
主な 検討事項	(1) 素案をベースとした標準仕様の検討 (標準化するべき項目の整理) (2) 標準化の動向調査 (3) 標準化活動の体制検討 (仲間を集める)	(1) 標準仕様の精査 <ul style="list-style-type: none"> データガバナンス委員会や利活用・普及委員会からの技術要求に対応 具体的なオープンデータを素材として仕様をブラッシュアップ (2) 標準仕様に付随する技術資料やツールに関する検討(利用ガイド・運用体制など) (3) 標準化活動に関する進展報告と意見交換	(1) 2年目に引き続き、標準仕様のブラッシュアップ (2) 標準仕様に付随する技術資料やツールの精査(検討事項に基づく運用を含む) (3) 標準化活動に関する進展報告と意見交換

- データガバナンス委員会／利活用・普及委員会からの技術要求
- 検討対象となる具体的なオープンデータの入手

技術委員会での検討内容案(1年目)

開催回 (概ねの時期)	議題
第1回 (本日)	(1) 参加者紹介および委員会の進め方について (2) オープンデータ流通に関する技術的な意識合わせ (3) 標準仕様の素案紹介
第2回 (11月～12月頃)	(1) 標準仕様素案に関する議論 (2) 類似する体系や仕様に関する調査結果報告
第3回 (1月頃)	(1) 標準仕様素案に関する議論 (2) 国際標準化動向に関する意見交換
第4回 (2月頃)	(1) 標準仕様素案に関する議論 (2) アプリケーション事業者から得られた、技術要件に関する課題検討 (3) 国際標準化のための体制や実施項目に関する意見交換 (4) 今年度活動報告について (5) 次年度活動計画について